

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	ニチイのほほえみ千歳(1階)	評価実施年月日	2010年2月24日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	2010年2月24日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念を掲げ、理念周知徹底し、その人らしい生活が送られるようにする支援を心掛けている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいます。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	事業所は2ヶ月に1回、家族・地域の人々と利用者が地域の中で暮らし続ける事を大切にしたい理念を理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩・買い物等の機会を多く持ち、その際、挨拶や声掛けをするよう心掛けている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	事業所は、地域の活動や行事などには積極的に参加し、交流することに努めている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者・町内会の集会に参加との話しも出ていて積極的に参加を心みるも、現実には難しく取り組んでいないのが実状である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の話を聞き、スタッフ間でカンファを開き、情報をスタッフ全員に周知・反映させている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族への報告はその都度、利用者様の変化などに関し事業所での金銭管理は常々報告をしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見・不満・苦情などは管理者・職員が話し合いを設け、運営に反映させている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関すること・意見・提案は会議を設け反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の勤務調整は状況の変化にあっても柔軟な対応をしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	特別の事情が無い限り、職員の異動・離職を抑えて、利用者へのダメージを防いでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>介護の講習会や研修を受ける機会があれば積極的に職員は参加するよう勧めている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者との交流する機会を持ち、また、相互訪問などの活動を通じ、同業者同士での運動会やイベントに参加したり、介護に関する講演会に積極的に参加している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ストレスの溜まらないよう、お互いにその場で何でも話し合うようにしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>働く中で、職員同士の努力に感謝をすること。『ありがとう』の言葉が飛び交う中で各自が向上心を持って働けるよう努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談から利用に至るまでに本人が困っていることや不安なことや求めていること等を本人から良く聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談から利用に至るまで家族が困っていることや不安なことや求めている事などを良く聴く機会を作り受け止めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談に面談時間を多く持つよう心掛け、何か必要なのかを見極め、他事業者にもアドバイスを受ける対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居申し込み前に、内覧頂き、事業所内に雰囲気を感じて頂いた上での入居という形を取らせて頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	スタッフ全員が、入居者様の目線で穏やかな言葉掛けを行ない、カラオケ等をしたりと、歌詞やリズムを学んだり入居者の若い頃の話話を聞き、共に支えあう関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族来訪時に、ホームでの様子を伝え、ご家族の意向を伺いながら、本人を支えていく関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居前のアセスメント時にご家族関係についてお話を伺い、ご家族来訪時には、近況をお伝えし、遠方のご家族には、手紙にて近況をお知らせし、関係構築に努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご入居の際に、今まで家庭で使用されていた物を持って来て頂いたり、知人・友人の面会も受け入れ、関係を保つ支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お茶の時間や、カラオケ・レクの時間を作り、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支えあうことが出来るように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も、訪問・電話など連携を保ち、関係を保つよう努力している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の生活歴を知り、一人ひとりのホームでの暮らし方や意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人のこれまでの生活歴や生活環境、サービス利用についてご家族に伺い把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の過ごし方を把握すると共に、朝・夕・入浴前・バイタルチェックを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすために変化があれば、カンファレンスを行ない、ケアプランを作成し、本人がホームでの生活を過ごしやすいように、出来ること・出来ない事を見極め、スタッフ全員の意見を取り入れた介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画期間に応じて、見直しを行なっている。 見直し以前に対応出来ない変化が生じた場合はカンファレンスを行ない、現状に即した新たな計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケア実践に関しては、個々の介護記録に記入している。 結果、気づきは定期的開催されるカンファレンスに発表を行ないケアプラン見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	退院、買い物など状況に応じ、柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署による防火訓練や行事の際、ボランティアによる踊り・演奏など必要性に応じ支援している。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人が必要としていることに対し、他事業者と連携を取り、数々のサービスを利用出来る支援をしている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じ、地域包括支援センターとは協議している。 運営推進委員会には必ず出席して頂いている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間毎に提携病院の往診を受けている。また、緊急時はすぐに連絡し、相談を行ない日常に健康管理に努めている。利用者の身体状況に応じながら、皮膚科・歯科・眼科の受往診を行なっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医と常に連携を取り、相談できる体制を整えている。利用者の体調変化時には、すぐに診断・治療を受けられるよう支援している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者を良く知る提携医療機関の看護師と連絡を取り合い相談している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	提携医療機関に連絡し連携を取っている。早期退院に向け、常時連絡は取る体制が出来ている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合、必ずご家族同席にてドクターよりお話を伺い、ご家族の意向も踏まえ終末期に向けた話し合いを行なっている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	常に提携医と連携を取り、ホーム内での出来ること・出来ない事を見極め、提携医と共に支援に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居時のアセスメント時にご家族が関係者と良く話し合い、情報交換を行ない、ケアプランの内容も伝え、本人のダメージを防ぐよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりの誇りを大切に、ご本人のプライドを傷つけることのないよう言葉掛け、対応に注意し、配慮している。</p> <p>個人情報に関しては、鍵のかかるキャビネットに保管しています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの状況に合わせ、本人の思いが表せるよう声掛けを行なっている。</p> <p>ご本人の意志を尊重し、自分で決めて頂けるような促しを行ない、暮らせるよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切に、1日1日の暮らし方について、本人の希望に沿って生活して頂けるよう支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>2ヶ月に1回、訪問美容師が来訪し、散髪を行ない、身だしなみに気を付けている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立をたて、毎日食事を提供している。また、食べたい物を伺い提供している。</p> <p>利用者と職員がその人に合わせ、一緒に準備や片付けを行なっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人が望む、飲み物を状況に合わせて提供している。毎朝、食後にコーヒーを提供している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを掴み、定期排泄を行なっている。パッド汚染時には支援を行ない、清潔を保持している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を実施している。利用者に合わせて介助を行なっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息をしている。夜間は安心して眠れるように声掛けを行ない支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	スタッフ利用者と相談しながら開催している。ご本人の趣味を活かし、役割を持つことで、張り合いを持って生活して頂けるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	会社の方針によりご本人の現金所持はご遠慮頂いている。必要に応じ、一緒に買い物に出掛けるが現金管理は事務所が行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	足元の良い時、天気の良い時などは、散歩をしたりしている。 ベランダにての日光浴を行ったり、庭の手入れなどスタッフと共に行っている。 買い物にも行き気分転換を行っている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族との外出は自由に出掛けて頂いている。 バスレク・フルーツ狩りなどの外出はスタッフ同行にて行っている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご本人希望にご家族への電話が出来るよう支援している。 ご本人宛ての手紙を渡している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気作りに努め、居心地の良い場を提供出来るよう努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設け、ホーム会議やカンファレンス時に拘束に対する学習を行なっている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や日中玄関に鍵を掛けずに、常に一人ひとりの状況や見守りを行ない、ケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者のプライバシーに配慮し、常に所在や様子を把握しケアに努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりに状態に応じて、物品の保管・管理を行ない、危険を防ぐ取り組みを行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット勉強を行ない、知識を学ぶと共に、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命講習を受講し、応急処置が出来るようになっている。また、スタッフルーム内に急変時や事故発生時に備え連絡手順を提示している。スタッフがすぐ駆けつけられるよう連絡網を作成している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練を行ない、利用者が安心して避難出来るようになっている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人ひとりに起こり得るリスクについてご家族などに説明している。抑圧感のない暮らしをして頂くよう配慮し、対応策を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所・調理用具などは使用後必ず、漂白をし清潔に管理している。食材は毎日、新鮮な物を提供している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関・周囲は花を植えたり、明るい雰囲気作りを行ない、親しみやすく安心して出入りが出来るようにしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ホーム内に季節感を取り入れた飾りつけなどをして四季を感じることが出来るようにしている。利用者にとって不快な音や光が少なく居心地良い生活が送れるように配慮している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居者が自由に好きな場所で過ごせるようにしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人や家族と相談しながら、馴染みある物や使い慣れた物を使用し、居心地良く過ごすことが出来るよう工夫している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>室内・乾燥気味な時が多い為、換気や湿度調整は加湿器を設置するなどをし利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		



. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族            家族の2 / 3くらい            家族の1 / 3くらい            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように            数日に1回程度            たまに            ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている            少しずつ増えている            あまり増えていない            全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が            職員の2/3くらいが            職員の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が            利用者の2/3くらいが            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が            家族等の2/3くらいが            家族等の1/3くらいが            ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	ニチイのほほえみ千歳(2階)	評価実施年月日	2010年2月17日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	2010年2月17日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自に理念を掲げ、周知徹底を行ない、その人らしい生活が送れるよう支援している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホームの運営理念を朝・夕の申し送り時に唱和し、理念に基づき支援方法に取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族会などでホームの理念を伝えている。 ”おだやかに・すこやかに・安心・安全に”に理念をケアに活かすよう努めている。	ホームの理念・特色を地域に人々に理解して頂けるよう、地域活動や広報に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩・買い物に出掛け、隣近所の方達と挨拶を交わしている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事に参加し、地域活動の情報を集め、参加するよう努力している。近隣の小学校と交流会を行なっている。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	学習会などは、実施していないが、毎月のホーム会議などで話題として取り上げている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価や外部評価の意義について、職員に周知すると共に、実施後は、指摘を受けたことについてホーム会議などで検討している。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>家族からのサービスへの要望・意向を取り入れ、推進会議で話し合い、状況報告している。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>必要に応じて、管理者が市役所担当者とコンタクトを取っている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>機会があれば、権利擁護に関する研修会に管理者は参加している。</p>	<p>権利擁護に関する研修会に管理者のみならず、職員も積極的に参加していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>ホーム会議での学習と、カンファレンスなどを通して、支援方法に問題がないか話し合い、意見交換している。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約前に可能な限り、本人・ご家族に見学の機会を持って頂いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の話を傾聴し、スタッフ間で情報交換して速やかに対応している。</p>		
<p>家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>特に定期的な報告はしてはいない。来所の折に、近況を伝えている。</p>		<p>近況報告をお便りなどで、なかなか来所出来ないご家族にも伝えていきたい。</p>
<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>来訪時や、家族会で意見を頂いている。</p>		
<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のホーム会議・ユニット会議などで、色々な提案を聞く機会があり、その都度、運営に反映出来るか検討し、努力している。</p>		
<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>十分な人員を確保しており、必要に応じて人員配置を厚くしている。</p>		
<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>事業所内の異動に関しては、異動後もユニット間の往来を自由とし、入居者様のダメージを最小限にしている。また、離職者を出さないよう、職員の意見に耳を傾ける努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修会などの情報を積極的に公開すると共に、参加した職員は交通費・日当を支給している。</p>	<p>今後とも、外部研修には積極的に参加出来るようにし、ホーム会議などで研修の内容を話し、参加出来ないスタッフにも知らせる。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者が行なう研修会に管理者が参加して交流を図っている。</p>	<p>職員も参加出来る機会を増やしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>勤務と休憩の区切りを付けれるよう、スタッフルームを設け、リラックス出来るような環境作りをしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>会社のキャリアアップ制度を用いて、個人面接を行ない、職員が向上心を持ってスキルアップしていけるよう支援している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居時のアセスメントやご本人の生活状況を見極め、不安を取り除くよう声掛け・会話を多く持ち、信頼関係を作っている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居希望の内覧時、詳しくお話を伺い、不安を解消する努力をしている。来訪時にも、ご本人の様子を伝え、ご家族の意見を聴く機会にしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時とその前段階では管理者が関わり、対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居時、ご本人の使用されていた、馴染みある物をお持ちして頂き、家具の配置も今までに近い状態をお聞きし、環境作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ホームの掃除・調理の下ごしらえなど、出来る方に一緒に手伝って頂きながら、コミュニケーションを取っている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ケアプラン交付の際や、電話連絡時、または来訪時にご本人の日常の様子などを話しながら、ご家族と意見交換している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日々の様子を家族に伝え、また施設を訪問しやすい環境作りを行なっている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人・友人などの訪問を受け入れ、支援に努めている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士、コミュニケーションが不足しないよう、スタッフと共に関わり、支えあえるよう支援に努め、孤立しないよう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院された方へのお見舞いに行っています。その後の受け入れ先の相談なども随時行なっています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の話しを、常日頃、傾聴するよう努力し、その人の思いや意向を把握出来るようつとめている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	普段の会話の中で聞き取れるようにしたり、入居者様の基本情報を見たり、家族から聞き取りしたりと把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々のケアから、スタッフ同士、情報を交換し、申し送り時に伝え、周知している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンス、ユニット会議などで、計画作成担当者と話し合い、入居者様主体の目標をたて、ご家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。		介護支援専門員の適切な管理のもとで、本人・家族・必要な関係者と話し合い協議した結果で、介護計画作成をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	実施後の評価、見直しを計画作成担当者や職員と話し合い、状態変化に応じた見直し、現状に適した計画を立てているが、介護支援専門員の適切な管理のもとでの、本人・家族必要な関係者との話し合いには至っていない。		介護支援専門員の適切な管理のもとで本人・家族・必要な関係者との十分な話し合いのもとで現状に即した計画を作成していきたい。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルや日々の介護記録・身体状況を記録し、申し送り時などで、情報を共有し、カンファレンスで見直し、意見を取り入れ計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホーム単独の事業所のため、特段のことは行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方々の訪問、避難訓練や小学校との交流会を行なっている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	外部ケアマネと連絡を取り、意見交換し、アドバイスなど相互の交流に努めている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	オンブズマン制度に加入、また、地域包括支援センターとは運営推進会議などでも、総合的・長期的なケアマネジメントについて相談している。		本人の意向や必要性に応じたケアマネジメントに係る資源活用や利用に際しては、随時相談していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	提携医による、2週間に1回の往診と、緊急時には、受診や電話連絡で、適切な指示を頂いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診・受診時に、認知症に関する相談をし、診断・治療を受け、助言や指示を頂き、支援の方法に活かしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携医の看護職員に相談し、健康管理や医療活用について協力を得ている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院に向け、病院と情報交換し、連携を取っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在、医療連携体制加算は取得していない。重度化や看取りに関しては、検討中である。		家族に対する説明と職員の啓蒙に取り組んでいきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	提携医より、指導を仰ぎ、チームに周知し、変化を見逃さず、検討しながら支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>アセスメントにより、生活状況を把握し、本人に合わせた支援内容を心掛けている。ご家族からの情報からダメージ防止に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>日常的に、ケア関係者間で尊厳を守る支援を心掛けています。また、会議などでの指導をしている。 個人ファイルはキャビネットに保管し、漏洩のないよう鍵を掛けている。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の思いが伝えにくい方には、ゆっくりと説明し、表情や顔つきから、自己決定を促している。他、入居者様の希望や意見を中心に暮らせるよう支援している。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>散歩や買い物など、一人ひとりの体調に合わせ、その日・その時の思いを配慮し、柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>毎朝、整髪・整容の声掛けの支援をしている。 理・美容は2ヶ月に1回、訪問美容室に来て頂き、本人の好みに合わせて、カットなどをして頂いている。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>出来る方には、一緒に準備・後片付けを手伝って頂いている。食事中は、味付けや食の好みの希望などを会話しながら、介助が必要な方には支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者様が好む飲み物やおやつを提供するように心掛けている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、適時さりげない声掛け・誘導を行なっている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者様の希望に合わせて、入浴して頂いている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の生活習慣と身体状況に応じて休息を取って頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとり、役割を見出せるように、生活歴・趣味などから、得意・不得意を見極め、促しにより、出来ることを一緒にして頂いている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、お金は職員が管理している。買い物も職員が同行して行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物・散歩・楽しみ事のための外出を積極的に機会を作っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族との外出や外泊は自由に出掛けて頂いている。また、バスレク・フルーツ狩りなどの外出には、スタッフ同行で行なっている。		日常的な、入居者様との会話から希望を聞き取り、行事として計画している。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご家族の了解があれば、電話出来るように支援している。手紙のやりとり出来る方には、声掛け・促しにより支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ホームでは、いつでも訪ねられるよう、ご家族の出入りは自由となっている。知人・友人などもご家族からの拒否がない限り、訪問自由となっている。職員は、笑顔で迎え、居心地良く過ごせる雰囲気作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を設け、具体的な禁止事項を職員全体で認識し、拘束のないケアを目指し、支援している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者様の心理的圧迫感を感じさせないように、日中は鍵を掛けず、見守りを徹底している。		入居者様が外に出て行きそうな雰囲気を察知した時は、さりげない声掛けをし、散歩に行くなど安全に配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士、声を掛け合いながら、見守りしている。居場所の確認など、連携を取り、さりげなく様子を把握し、見守りしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な物は、リビングには置いていない。また、包丁などの危険な物は見えないところ(物品庫)に置くよう注意している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	行方不明、火災などの対処の仕方、緊急連絡網での応援。転倒・窒息などの対処をケアカンファレンスにより、入居者様、一人ひとりの事故リスクを把握している。また、事故発生時には、報告書を提出すると共に家族に連絡している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応について、ホーム会議や避難訓練などで確認し、日頃より確認を行っている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルの作成・消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方など、定期的に訓練を行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクに関しては、入居時に十分な説明と、体調変化時などに、その都度、ご家族に報告・説明・今あるリスクを伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>1日3回のバイタルチェックを実施し、体調の変化を見落とさないよう、記録・申し送り時に確実に報告するよう徹底している。病状が見られた場合、提携医への連絡・相談を行ない対応している。</p>	<p>バイタルチェック、体調の変化・異変に気付いた際は、速やかに報告をする事になっている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬マニュアルに基づき、誤嚥がないよう、服薬管理し、正しく服薬出来るよう職員同士の声掛け・連携を図り、慎重に支援を行なっている。</p>	<p>薬局からの情報書を読むだけでなく、薬の効能・服作用についても、学んでいきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>青汁・乳製品(牛乳・ヨーグルトなど)果物・食物繊維の多いものを提供しよう心掛け、なるべく下剤に頼らないように心掛けています。また、体操の時間を設け、参加して頂いています。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの促しや、職員の支援により、清潔の保持に努めている。</p>	<p>個々に合わせた支援内容を行なっている。就寝前の義歯の管理・手入れを職員が毎日確実に行なっている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>摂取量や水分量のチェック表から、一日の水分量が確保出来るよう、職員間で、段階的にチェックし、支援している。</p>	<p>食事の形態は、個別に合わせた物を提供し、支援している。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に対する取り決めがあり、毎年、インフルエンザの予防注射を受けている。感染症対策マニュアルを洗面所に設置している。</p>	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>キッチン衛生管理チェックシートで、毎日点検チェックを行ない、衛生管理に努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関には、スロープと手摺りを設置しており、冬季はロードヒーティングを入れる他、職員により雪かきを行ない、安全を確保している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感を取り入れた装飾を心掛け、明るい生活空間を演出している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングに隣接した和室とソファが設置され、入居者様同士憩いの場になっている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際に、ご家族と相談し、馴染みある慣れ親しんだ物を持って頂けるよう説明している。本人が居心地良く過ごせるよう、馴染みある住環境作りをしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎朝の掃除の際の換気・適時換気に努めている。トイレは、換気扇と消臭剤・消毒などで、臭いが残らないよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リビング・廊下・トイレ・浴室に手摺りを設置し、一人ひとりの身体機能に応じて、活用出来るような環境作りになっている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりのわかる力を職員全員で把握し、個別対応の支援を行なっている。出来ることを見極め、待つ支援に努めている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外の空きスペース(畑)でトマト・芋などを入居者様と一緒に植え、収穫を楽しみにしている。また、ベランダで洗濯物を干したり、日向ぼっこをしている。</p>	

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> <del>利用者の1 / 3くらい</del> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <del>毎日ある</del> <del>数日に1回程度ある</del> <del>たまにある</del> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> <del>利用者の1 / 3くらい</del> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> <del>利用者の1 / 3くらい</del> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> <del>利用者の1 / 3くらい</del> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> <del>利用者の1 / 3くらい</del> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2 / 3くらい</del> <del>利用者の1 / 3くらい</del> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <del>ほぼ全ての家族</del> <del>家族の2 / 3くらい</del> <del>家族の1 / 3くらい</del> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <del>ほぼ毎日のように</del> <del>数日に1回程度</del> <del>たまに</del> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている            少しずつ増えている  <u>あまり増えていない</u>            全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が  <u>職員の2/3くらいが</u>            職員の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が  <u>利用者の2/3くらいが</u>  <u>利用者の1/3くらいが</u>            ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が  <u>家族等の2/3くらいが</u>  <u>家族等の1/3くらいが</u>            ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 日々の暮らしの中で、入居者様・ご家族様・職員が支え合い・助け合いながら、地域社会の中で、  
 地域の一員としての生活が形作られるよう努めていきます。